

令和 元 年 11 月 10 日

太田市議会議長 久保田 俊 様

創政クラブ代表 大川 陽一 ㊟

## 会派行政視察報告書

1 期 間：令和 1 年 10 月 29 日 (火) ～ 10 月 31 日 (木)

2 視察先：高知県黒潮町

全国市議会議長会 会場 高知県高知市 高知ぢばさんセンター

3 参加者：大川 陽一・矢部 伸幸・高田 靖・高藤 幸偉・今井 俊哉・高木 きよし・

板橋明・松浦武志・長ただすけ・松川 翼・(久保田 俊は議長公務にて参加)

4 視察事項

- 黒潮町 スポーツツーリズムについて
- 全国市議会議長会 議会活性化のための船中八策

基調講演 東京工業大学教授 中島 岳志

パネルディスカッション 坪井ゆづる

課題討議 坪井ゆづる

## ① 高知県黒潮町視察報告

### 黒潮町概要

面積 188.59 km<sup>2</sup> 人口 11,162 人 世帯 5,518 世帯 (R.01 年 9 月 30 日)

議員数 14 人 一般会計予算 H30 10,280,000 千円

気候は、南国特有の温暖で年間平均気温 17 度、降雨量年間 2800mm と雨が多い。また、「土佐カツオ一本釣り漁業」が盛んであり、近年は完全天日塩も代表的な特産物となっている。

### 視察の目的

地域のスポーツ関連資源を活かして、スポーツ環境を整備し、観光と連携しながら、交流人口を増やす観光まちづくりの参考にするため

### 所感

「スポーツツーリズム」とは、平成 23 年にスポーツツーリズム推進基本方針が策定され、スポーツ資源と旅行や観光資源を融合し、観光資源の創造、新しいビジネスの創出、地域の活性化などを目指そうとするものである。黒潮町はスポーツを活かした町づくりを行い、2016 年度に大方球場をボランティアにより芝生植え付け作業、2017 年度に土佐西南大規模公園のサッカー場のクレーコートに、人工芝グラウンドに変えるなどにより、利用者が毎年増加している。スポーツツーリズム事業としての実績を挙げると、下記になる

年度	宿泊数	直接経済効果（宿泊費、弁当・食事代、会場使用料等）	経済波及効果（直接効果×1.42）
平成 23 年	357	2,410 千円	3,422 千円
平成 24 年	1,720	9,458 千円	13,431 千円
平成 25 年	4,030	23,960 千円	334,023 千円
平成 26 年	4,483	29,986 千円	42,580 千円
平成 27 年	5,119	36,050 千円	51,191 千円
平成 28 年	8,541	6,5729 千円	93,336 千円
平成 29 年	11,821	100,427 千円	142,606 千円
平成 30 年	11,964	91,978 千円	130,609 千円

増加の理由としては、プロスポーツチームを招待するのではなく、学生を中心に集客を目指していること。運営には、地元の NPO「砂浜美術館」も積極的に関わり、会場や、弁当、試合相手の調整、砂浜トレーニング等のコーディネートを行い、窓口の一元化で利便性を上げ、さらに経済効果も高めるために、NPO が宿泊業の免許を取得し、宿泊の斡旋も行っている。さらにホエールウォッチングや、カツオの薫焼きタタキ作り体験をセットで提供することにより、毎回違う趣向が人気で、リピーターを増やしている。現状は野球 8 割、サッカー 2 割となっており、今後は屋内型スポーツなどの強化もされていくとのこと。太田市においては、これまでも国代表合宿の誘致などに取り組んできたが、今後さらに推進を図っていくためには、情報収集から、誘致、受入、アフターケア、PR といったスポーツ誘致活動を戦略的に展開し、推進していくことができる体制の強化。また、スポーツ種別ごとに関係スポーツ団体との連携組織を設置し、競技者側の施設等に対するニーズの把握やプロスポーツキャンプ等における応援や地元の盛り上がりに向けた受入態勢の充実を図る必要がある。

# 視察写真

- 黒潮町スポーツツーリズム



## 基調講演 現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性～

総括： 政治のマトリクスの縦軸に配分を巡る Y 軸を置き、横軸に価値を巡る X 軸を置く。Y 軸の配分を巡る軸とは、リスクの社会化とリスクの個人化で対比される。X 軸の価値をめぐる軸とは、リベラルとパターナルで対比される。ここで言うリベラルというのは、「相手が自分と異なる思想や政治的、宗教的な信条を持っていても、お互いそれを認め合うという、多様性を認める寛容な価値観であり、このリベラルと反対の価値観を、保守ではなく「パターナル」としている。パターナルは「父権的」とも訳され、家庭内で強い力を持つる父親が、特定の価値観を家族に強いるといったリベラルの寛容さと対立する権力のあり方としている。

現在の政治家をこのマトリクスの図表に当てはめて考察すると、自民党の安倍内閣は、価値観がパターナルでリスクの個人化に分類されるとのこと。今までの首相（田中、大平、小泉、安倍）を具体的にグラフのどこに入るかを説明しながら自民党の歴史を分析した。

## パネルディスカッション

総括： コーディネーターの朝日新聞論説委員の坪井ゆづる氏が、(1)行政監視機能をどうやって高め、成果を上げてゆくか。(2)人口減少、外国人の増加、災害対応などなど、地域の将来を見すえた政策論議をすすめるために必要な視点とは何か。(3)候補者男女均等法のもとで、「老老男男」の実態をどう変えられるのか。(4)規模の小さい議会で深刻化する「なり手不足問題」にどう対処するか。(5)住民の関心を高めるには何をすべきか、という 5 点の題目を示して、これについて 4 人の登壇者とディスカッションした。市町村職員中央研修所学長の高部正男氏からは、議員のなり手不足から起こる無投票当選の増加を指摘、早急に検討すべき課題として、地方選挙の統一、兼職・兼業規制の弾力化、休暇・勤務時間・休職等の労働法 制の見直し、議員の厚生年金への加入があげられた。株式会社コラボボ代表取締役の横田響子氏は、人口減少を前提にして、20 年後の住民が幸せかどうかをもっと議会で議論すべきであり、そのためにはデータをもとに政策を考えることの必要性を述べた。議会を活性化するために、ガチンコ会議というものを開き、平均年齢を 40 歳くらいに設定し、女性を半数以上入れ込むことで開かれた活発な議論が行われるというもの、また、経験の機会を提供するために、議会を土日、夜間など市民が参加しやすい時間帯に開く事などのアイデアが提案された。高松丸亀町商店街振興組合理事長の古川康造氏からは、戦後の農地解放は素晴らしい政策であったが、土地に対する執着心によって、社会背景、商業環境の大きな変化により、高松市丸亀町商店街がシャッター通りと化してしまった経験を語り、これを解決するために土地の所有権と使用权を分離するといった手法の紹介をした。まちづくり会社が、細分化してしまった土地を定期借地により 1 階の商業床を一体的にマネージメントするということがあったが、地域のコミュニティーが崩壊していれば開発は不可能だとも述べた。高知市議会議長の田鍋剛氏からは高知市議会の概要と、インターネットによる本会議定例会の録画配信、会議録検索システムなど、主な議会改革について述べた。

## 課題討議

総括：昨日と同じく、コーディネーターに坪井ゆづる氏が務めた。坪井氏はデータで見る地方議会として、女性議員のいない議会の存在、議員のなり手不足、議員報酬を議員専業で暮らしていけるようにすることの重要性、議会基本条例の標準装備化、3ない議会（1、首長提案議案をひとつも、否決も修正もしていない。2、議員提案の政策条例をひとつも制定していない。3、議員個人の賛否を公開していない）を、3ある議会に変える等が挙げて討議が始まった。上越市議会議員の滝沢一成氏は、市議を目指しやすい環境整備への提言をした。市議を目指すことを阻害する原因の一つとして選挙費用の不安、報酬や身分保障への不安等をあげた。「市議をめざせないではなく、目指さない」、「議会の事を知らないし知りたくもない。もともと興味がない」という議論から「議会の魅力を見せなきゃ始まらない」と考え、議会の見える化が第1と考えた。議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力であると語った。鎌倉市議会議長の久坂くにえ氏は、女性議員の現状の視点を語った。まず、出産時に議会運営上、様々な問題が顕在化してきた。会議規則に出席が欠席事由として規定されておらず産前、産後など期間の定めもなかった。会議の運営の問題点については、多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮がなく、行政職員への影響を挙げた。環境整備にむけて、出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方を明示すること、子の看護休暇に関する規定の整備、配偶者出産休暇の取得、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備をすることが必要だと提言した。最後に周南市議会議員小林 雄二氏が議会改革の歩みを語った。キーワードは「公開」と「対話」との事。行政監視機能の充実のため所管事務調査を積極的に行い、指定管理者制度に関する調査を議員研修会で学習した上で、各委員会で市内の73施設全てに調査票を出させたとのこと。

今回のフォーラムを通して、議会改革や議会活性化策など大きなテーマのもと、議員のなり手不足の解消や有権者が議会の関心を高める為の対策、若者や女性の政治参加などの議論が行われました。太田市の議会改革の取り組みは、議会のインターネット中継、会議録検索システム導入、タブレットを使い議会関連資料をペーパーレス化など他市に比べ進んでいる部分もあるが、さらに議会改革を推進して市民からの関心を高めることで、若い議員や女性議員のなり手を増やし、多様性を高めることも必要だと感じた。今後も議会改革について学んでいき、市民の声を大切に、太田市の発展のために改革に取り組んでいきたい。

## 視察写真

- 全国市議会議員会研究フォーラム

